

島根県における障害者の権利保障の歴史（I）

西 信 高

Nobutaka NISHI

History of Guaranteeing rights of the
Handicapped in Shimane Prefecture (I)

Abstract

Shimane Conference for Developing the Welfare and Education of the Handicapped became extinct both in name and reality in 1993. But the organization had played an important part in guaranteeing rights of them, especially of mentally handicapped children, for about ten years in the 1970s–1980s.

We can draw a lot of universal lessons from it's history not only in diversity of activities but democratism in management. This is the first report indicating a general view of it's ten-year history.

はじめに

私事になるが、島根県民として生活するようになってから、はや20年が過ぎ去った。大阪から移り住んで、その当初に感じたことは多々あるが、市民運動がきわめて低調であるということもその一つであった。その後、学外においてさまざまな障害者と接し、また障害者の問題にもかかわってきたが、この島根県においては、市民運動として障害者の問題を発展させることはますますむづかしくなっているように感じる。可能な限りそのような運動に力を尽くしてきたつもりであるが、未だ機は熟さずという思いから、最近はそのような関係ではほとんど学外に出ることはなくなっている。

島根県、とくに出雲地方の県民性についてはしばしば話題にのぼるところであるが、やはりそれとの違和感を感じるようになったことがその大きな理由となっている。

60年代の高度成長の時代に、島根県は過疎化が急速に進行したが、そのころ島根県の教育行政は過疎化の歯止め策の一環として、高校の学区の再編成等さまざまな改
島根大学教育学部障害児研究室

革を行った。その時期を境として、それ以前に学校教育をくぐり抜けた人たちとそれ以降の世代とは、個人的な経験の範囲で言えば、人間性において大きな隔りがあるように感じている。県内のどこへ行っても、高齢の人々はみな親切で暖かいのである。人間性の形成においては、必ずしも地域の特性が第一義的に作用するのではなく、やはり少なくとも現代においては教育が大きく作用しているように思える。こうした問題はまたあらためて検討したいと考えているのであるが、いずれにせよ、島根県においては障害者運動の分野のみならず市民運動一般の形成は非常に困難な仕事であると言えよう。

93年11月末、つぎのようなはがきが送られてきた。

障害児の福祉と教育をすすめる
島根県連絡協議会会員の皆様
——親睦会のお知らせ——

過日ご案内しました通り、1月13日に総会を開き、当会の方向性と資金の運用方法について、検討しました。その結果、会の資金残高、538,000円（前回の報告後、郵便定額解約し利息繰り入れ）の内50万円

を、当会が母胎となって7年前に設立した共同作業所さくらの家へ寄贈し、残りを会員の親睦会費用の一部に当て、当会は発展的に解散することとなりました。ここ7年間、会独自の活動はありませんでしたので、近況を報告したいと思います。多数のご参加をお待ちしています。

そして、この文章に引き続いて、親睦会の日時等が記されてあった。

「障害児の福祉と教育をすすめる島根県連絡協議会」（以下「会」）、この会は、筆者にとって忘れられない会となっている。歴代の会長は保護者がつとめており、その他、活動の全期間を通じて筆者の名前が外部に示されることは準備の段階を除いてほぼ皆無であった。それは、運動をすすめるために組織上・戦術上必要であったことによる。しかし、すでに会が消滅してしまった現在、この会を振り返り私情を排して客観的事実と言うならば、実質的に運営の中核にいたのは筆者であった。上記の文章に示されているように、会は86年以降この7年間ほど、会としての活動はなかった。それは、筆者がいわば手を引いて以降の期間と合致しているのである。

そしてこの会は、島根県の障害者問題の発展に関して、本稿で示すとおり、とくに70年代以降輝かしい足跡を残してきたのであった。

解散の知らせに接して、この会がいったいどのような活動を展開してきたのか、そこでめざしたものは何であったのか、等々をあらためて明らかにしておくことの必要性を強く感じた。解散を宣言するということは、会の存在意義を過去のものとするに他ならず、だれかがここで書き留めておかなければ語り継ぐ者もなくそのままに埋もれてしまうであろう。

文中には「発展的解散」とあるが、養護学校の障害の重い中学部卒業生が高等部へほとんど進学できていない現状があり、その他障害児・者の福祉や教育をめぐる未解決の問題は今もって山積しているのである。作業所の運営に矮小化して解散しうる状況には決してないのである。また、会の外に目を転じれば、障害児の権利を守り発展させるべき教職員の組合が、年に一度「ひまわり号」を走らせることを活動の主な柱に据えるような状況にある。会の内外において、この会の活動の経過から多くを学びとる必要があるのである。その意味でも、会の全経過を書き留めておくことには大きな意義がある。

そのような作業は、本来ならば会員の共同によるべきである。しかしながら、今回は個人的なまとめとしている。共同作業を組織するにもすでに会はなく、また会の

設立を企図し、その後も運営の中核にいた筆者以上に詳しく知る会員は他にはいない。

そしてまた個人のレベルで言えば、島根の障害者問題の発展をめざすこの会に対して莫大なエネルギーを費やしてきた者として、はがき一枚で簡単に解散を宣告され、これですべて終わりとされたのでは浮かばれない、という思いがある。のちに述べるとおり、会の解散の主要な原因は、島根県において組織された労働者が絶対的に少数であり、しかもそのような労働者も教員をはじめとして市民運動に関する知識と経験が乏しいことにある。そのため障害者やその保護者が、組織を基盤として活動を展開するうえで困難があったという点にある。そのような問題も含めて、この際、事実の記録とともに運動論の科学化を試みたいという思いもある。これまでは共同作業で丹念に合意をつくりあげていくという姿勢を大切にしてきたが、それではあまりにも時間がかかりすぎる。そしてなによりも、すでにそれにとりくむ会はない。

この会に関わって筆者自身を語るということは、これまでに一度もしていない。それゆえかどうか、まったく事実と反して理解されていることも二、三の例にとどまらない。しかし、ここでは必要に応じて個人の活動にも触れることとする。正確な事実を具体的に語ることによって、障害者運動をすすめるうえでの普遍的な諸原則もより一層明らかになるであろうし、また、今後の各地での障害者問題の発展に寄与することになる。

本報は、「障害児の福祉と教育をすすめる島根県連絡協議会」の活動の経過について、その概要を示す。そして、次報以降において、個別に問題をとりあげて検討を加える。これらは、単純に過去を振り返ることを意図したものではもとよりのないが、控えめに言うならば、少なくとも島根県における障害者問題の歴史について、いわば民衆の側から綴るという点において貴重なものとなると考える。

Ⅰ 「障害児の福祉と教育をすすめる島根県連絡協議会」設立の経過

77年（昭和52年）の初秋であった。松江市立「ふじのみ園」（心身障害児通園事業）に子どもを通わせることをつうじて知り合いになった親どうしが卒園と同時にバラバラになってしまうのではもったいない、さまざまなかたちでかかわった人とも一緒になって、会をつくらうではないかと、園の一人の保母に話をした。それが、この会ができるそもそもの発端であった。

まず、二人で保護者の一人であるS I氏宅を訪問し、

相談した。S I氏は、そのころ保護者会長もつとめるなど、積極的に園運営に協力していた。そこで賛同を得たので結成の準備にかかり、同年11月に結成にこぎつけた。

筆者は、当時「ふじのみ園」で囑託(非常勤)の指導員をしていたのである。島根県に移る以前、大阪で障害幼児の指導にあっていたのであるが、どのような経路でかそれを知った保護者が松江市に筆者の招来を要請し、その結果同園に関わることとなった。保護者の言によれば、実際に障害幼児の指導に携わった経験のない保母に対して指導者が必要である、ということであった。

そのころは養護学校の義務制がまだ実施されておらず、在園児のなかには学齢に達していながら就学していない子どももいた。また保護者のネットワークも貧弱であった。「座敷牢」とまではいかないまでも、やはり“隠す”傾向も見られた。

そのように、障害児をめぐる状況はきびしいものがあってもかかわらず、それを乗り越え、子どもの発達を実現するための諸条件をつくりあげていく親の側の主体的条件は不十分なままであった。そしてまた、保健婦や保母・教師といった障害児とその親をサポートする人々もそれぞれ独立してその任務を遂行している状況にあった。つまりは、障害児に関わる人々がバラバラであった。会の設立は、そのような人々の力を結び合わせることを第一の目的としていたのである。

設立趣意書(77.11.3付け)は次のようになっている。なお、設立当初の会の名称には、「島根県」は入っていない。

障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会 設立趣意書

島根県における障害児の福祉や教育に関する施策の現状は、保護者や関係者の願いが十分反映されたものとはなっていません。

新生児期からの健診は、その時期や検診項目など、特に知的発達について改善すべき点を多く残しています。そして、健診の機能が、「異常を発見する」だけにとどまっています。障害を受けていれば、より早期からの治療と指導が必要といわれていますが、健診の結果が次の指導へと生かされる体制にはなっていません。そのため、異常を指摘されても親としてはなすすべもなく、何か所も病院まわりをし、結局は子どもにとって大切な時期を家庭で無為に過ごさせてしまうこととなります。

障害を受けている乳幼児が、集団の場で日常的に指導が受けられる公的機関は、現在のところ松江市の「ふじ

のみ園」が唯一のもので、しかし、これも小規模通園事業とよばれるもので、正規の通園施設ではありません。受け入れるための条件が整っていないこともあります。一般の保育所・幼稚園への入園はむづかしく、入園が実現しても他の子どもたちと同じ一人の園児として、大切にされている例はまだまだ少数です。

学校教育についても、障害児学級は、概して普通学級で学力の遅れている子どもが入るところとなっており、本来の対象児がしめだされるといったこともおこっています。また、養護学校がないため、やむなく在宅のままにおかれたり、養護学校があっても、スクールバスなど通学上の配慮がなされていないため、通えないでいる子どももいます。

これらの他、医療・福祉・教育にかかわる施策の現状は、障害児を産んだ親がわるい、自分で責任をもち、といわんばかりのもので、そのために、保護者には、精神的にも肉体的にも、そして経済的にも生活のあらゆる面にわたって大きな負担がかかっていますし、なによりも障害を受けている子どもたち自身の発達の可能性が狭められてしまっています。

障害の有無にかかわらず、すべての子どもが、「しあわせに生きる権利」をもっています。そして、障害児は、ハンディキャップをもっているが故に、普通一般の子どもに比べて、むしろ一層のきめ細かな手厚い施策がなければならぬものです。

しかし現状は、障害を理由として、さまざまな権利が薄められ軽んじられています。ほんとうに障害児の権利を守り、保障していくためには、みんなのねがいを集約し深めその実現をめざしてとりくむ、いわばとりでとしての組織が、ぜひとも必要です。そして、その組織は、障害の種類や程度の違いを越えて、民主的に運営され、広範な人々が参加できるものでなくてはなりません。

*

去る10月8日、松江市内で障害児を保育所に入れた実践記録映画「光の中に子供たちがいる」の映画会が開かれました。上映後交流会がもたれ、障害者・保護者・保母・保健婦・医師・教員・学生など多くの人が参加しました。そして、その場で、映画会を機に、今後もひきつづき、障害者の福祉や教育の問題を考え発展させていくための会をつくるのが、確認されました。

それを受けた形になりますが、このたび「障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会」を結成するはこびとなりました。この協議会は、会員のもっているねがいを小さなことでも大切にしてお互いに出し合い、障害児の問題について理解を深めるとともに、要求すべきは各関係

機関に働きかけていく会です。そして、保護者会などの「団体」を軸にしながら、広く「個人」の参加も得て活動をすすめていくものです。

みなさんにもぜひご参加いただき、障害児の福祉や教育をすすめていくための大きな力にしたいと考えています。

昭和52年11月3日

「障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会」
設立準備委員会

そして、77年11月27日に会は結成された。以下は、その案内状である。

障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会
結成総会のご案内

晩秋の候、ご清栄のこととお察し申し上げます。

保護者をはじめ障害児に直接間接にかかわりのある松江市内在住者が中心となって、標記の連絡協議会結成に向けて準備をすすめてまいりましたが、このたび左記(省略)により、結成総会を開くこととなりました。

つきましては、お忙しいなか、急なお願いにて誠に恐縮ではございますが、ご案内お願い申し上げます。

なお、設立趣意書(案)等資料を同封させていただきました。

昭和52年11月19日

障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会
準備委員会 代表 西 信高

Ⅱ 「障害児の福祉と教育をすすめる島根県連絡協議会」の10年 -経過の概要-

会の10年の歩みを、年表ふう以下に掲げる。

注釈をいくつか挙げると、まず、総会の回数は78年の臨時総会を含めて数えている。また、幹事会や事務局会議の回数は各年度ごとに数えており、ニュースの号数や事務局会議等会議については、簡略的なものや小規模なものは省略している。幹事会の前には、議案の整理や準備のために事務局会議が開かれるのが通例であった。この他、個人名が入るべき部分は概ねその個人の職種で代替させている。

77年度(昭和52年)

77.11.27 結成総会

1時-4時 松江市いこいセンターにて
運営 進行役 医師
準備委員会報告 西
規約(案)提案 保護者

会員27名でスタート

選出された役員 会長 保護者
副会長 保護者

会費 一人年額 500円

総会后、今後の活動について意見交流会
松江市との交渉他について協議

12.4 第1回 幹事会

12.13 松江市議会議長あて陳情

12.13 会長・事務局長で、議会と各政党回り(挨拶)

12.20 議会事務局へ陳情書提出

12.23 副会長・事務局長で、人形劇団(在松江市)
「チキート」と打ち合わせ

78.1.4 上記について、1.29に公演することを劇団との間で正式決定

1.10 上記について、チラシの作成・配布

1.12 会長・副会長・事務局長の三者で、規約の検討および今後の活動について協議

・市議会T議員をとおして早期に松江市長との懇談会をもつ

・共産党・公明党に、松江市議会議員が会員になることについて再度要請する

1.15 第2回 幹事会

・人形劇の宣伝について

・映画「光の中に子供たちがいる」第二部上映会開催についての基本方針決定

1.29 人形劇鑑賞会

2時-3時 於 城北公民館
参加費 100円

2.4 第3回 幹事会

参加者小数のため雑談

2.14 ニュース No.1 発行

2.17 第4回 幹事会 6時-8時 いこいセンター
・映画上映について具体的活動開始

2.20 松江市議会で、陳情項目のうち「ふじのみ園」入園関係についてのみ採択

2.23 ニュース No.2 発行

3.5 第5回 幹事会

・会の内部に相談機関を設置する件

〃 第1回 上映委員会

3.13 松江市特殊教育研究会へ映画の共催を打診。

- 実現せず。
- 3.21 映画のポスター等印刷発注
- 3.22 臨時幹事会 (参加者少数のため実質的な審議せず)
- 3.26 保護者部会 保護者独自の集まりを持ち、親睦・交流。
会員外にも呼びかけ 10名参加 会員2名増
- 3.29 第6回 幹事会
・第2回総会の議案の審議等
・映画会準備
- 78年度(昭和53年度)
- 78.4.2 第2回 総会
会長 保護者
副会長 保護者 保護者
事務局長 西
幹事
教育 教員 保護者 保護者
福祉 保母 障害者 主婦
医療 保健婦 医師
施設 施設指導員
地域 保護者 保護者
会計監査 施設職員 医師 教員
- 4.2 映画第2回上映委員会
- 4.4 映画上映委ニュース No.2 発行
- 4.7 第1回 事務局会議
事務局員 医師 学生 保母
・総会総括
・ニュース
・事務局内の役割分担
- 4.9 映画宣伝のため一斉ポスター貼り
午後2時 県民会館前集合
- 4.13 ニュースNo.4 発行
- 4.13 映画上映委ニュース No.3 発行
- 4.19 松江市議会への陳情項目に関して松江市と交渉(保護者)
- 4.20 計画中のハイキングについて、事務局で松江市忌部休暇村の下見
- 4.23 保護者部会
- 4.23 映画第3回上映委員会 1:30-
- 4.24 第1回 幹事会
6時半-8時 いこいセンター
・保育所入所を希望した子どもの件
・ハイキング(5月28日に予定し、その後
- 下見に出かけたが、結局秋に延期)
・会長および副会長の名刺をつくる件
・映画の準備について
- 4.27 第2回 事務局会議
- 5.4 映画上映委ニュース No.4 発行
- 5.7 映画第4回上映委員会
- 5.9 第3回 事務局会議
- 5.11 映画上映委ニュース No.5 発行
- 5.17 第4回 事務局会議
- 5.20 「光の中に子供たちがいる」(第2部)上映
入場料 300円
入場者 ほぼ1000名
78.6.1 現在 会員数 団体 2
個人 49
- 6.11 松江市教育長との懇談会(共産党主催)
共産党から誘いがあったので、副会長が出席
義務教育修了後の子どもの進路について検討を要望
- 6.15 ニュース No.5 発行
- 6.24 2:00-4:00 映画会総括会
4:15-5:30 臨時 幹事会(拡大)
・当面の活動、予算
5:30- 懇親会
・映画会の慰労と関係者の親睦
- 7.2 保護者部会
出席 医師、教員
話題の内容
幼稚園入園を来年に控えているが、どうすればよいか。
試行就学の子どものために、スクールバスを運転してほしい。
- 7.17 第2回 幹事会
・映画会総括
・なし狩り 9月中旬
・松江市職労が加入したことの報告
・会員の子どものさんが亡くなった(2家族)ので、香典としてそれぞれ5000円ずつおくる
・松江市長と、さきの陳情事項、なし狩りへの補助金、会への助成について話し合う機会をもつ
・相談部の設置について
次回幹事会で「幹事会案」をつくる
- 8.9 ニュース No.6 発行

- 8.14 第5回 事務局会議
・相談部について
- 8.21 第3回 幹事会（いこいセンター小会議室）
・相談部運営要綱について
- 8.28 第1回 相談部会（いこいセンター小会議室）
・相談部会発足 責任者 保母
事務局担当者 保母
部員 保護者
障害者 4名
医療 保健婦
教育 教員2名
福祉 保母2名 施設指導員
- 9.13 ふじのみ園への松江市外からの入園について、松江市から回答（「入園は認めない」）
- 9.14 松江市長との懇談会の設定について、秘書課へ催促
- 9.15 ふじのみ園入園を希望する市外在住者と懇談
・「籍を移して正式入園する」を認めるか、松江市へ打診する。
- 9.17 なし狩り
・安来市西中津 高橋なし園
鷲の湯温泉で昼食・休憩・懇談会
参加 大人 44人 一人 800円
子ども 33人 300円
学生 4人
参加費収入 42,800円
支出 バス 80,000円 2台
入園料 27,800円
休憩料 17,800円
おやつ代15,267円
- 9.17 人形劇団「チキート」より公演の誘いかけ
・期日の希望は1月末か2月
- 9.19 松江市秘書課から9.21でどうかと返事。あまりに急なので断わる。会で日を決めてくれと返事
- 9.21 第4回 幹事会
・8.28-9.19までの報告とまとめ
・会の略称・愛称をニュースで公募する件
・会の「印」をつくること
・会員の医師の送別会に対する補助について
- 10.11 中村芳二郎松江市長へ「当会の活動概要及び松江市に対する要望について」を提出
- 10.11 第6回 事務局会議
- 10.12 第5回 幹事会
・高谷清氏講演会(11.11)への協力について
・結成1周年記念事業を開催するか否か
・保問研主催の映画・講演会への協力について
・松江市長との懇談会の打ち合わせ
- 10.13 松江市長との懇談会
- 10.30 ニュース No.7 発行
- 11.6 第7回 事務局会議
・1周年記念行事について準備と打ち合わせ
a. 企画 人形劇とゲーム 島根大学
児童文化研究班に依頼ずみ
手品 田中栄一氏（隠岐）に依頼ずみ
略称公募入選発表
昼食会
「一年の歩み」資料
b. 当日の運営
10時半 会長挨拶
1年の歩みの紹介
人形劇とゲーム
12時 昼食会
発表
手品
2時 閉会挨拶
当日の係り
c. その他必要な役割分担
会場予約はすんでいる
いこいセンター大広間
案内状の作成と発送
参加者の集約
昼食その他飲食物の手配
出演者との打ち合わせ
・幹事会への議案の審議
・資金集めについて
「滝平二郎カレンダー」の販売の是非
・事務局内部の役割分担
- 11.9 第6回 幹事会
・前回幹事会以降の活動報告
・1周年記念の集い
臨時総会を兼ねて、名称を変更
「島根県障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会」から「障害児の福祉と

- 教育をすすめる島根県連絡協議会」へ
- 企画と時間配分
 - 予算 昼食 大人一人1000円
 - 参加者負担 会員 500円
 - 非会員 600円
 - 会場費 5000円
 - 映画の残務整理
 - 資金集め カレンダー
 - お母さんの新年会
- 11.? 第8回 事務局会議
- 11.26 1周年の集い・第3回(臨時)総会
 総会で「島根県障害児の福祉と教育をすすめる連絡協議会」から「障害児の福祉と教育をすすめる島根県連絡協議会」へと、名称変更
12. 5 第9回 事務局会議
- 幹事会への議案づくり
 - お見舞いの支出要領
 - 子ども・保護者 死亡 5,000円
 - 1か月以上の入院 2,000円
 - カレンダー販売状況
 - お母さんの新年会
 - 相談部関係
 - 「議案づくり」の意味の確認
 - 事務局で案をつくり→幹事会で案をもとに検討・決定し→それを受けて事務局で具体化・実行の手配→具体的な活動という手順
12. 6 第2回 相談部会
- 今後の相談部の活動について
 - 部内の役割分担について
12. 8 第10回 事務局会議
- 相談部会のまとめ
- 12.13 第7回 幹事会
- 会の印をつくり、郵便振替の口座を開設する。
 - 見舞金は、「子ども・保護者」でなくて、「会員とその子ども」
 - カレンダー
 - 松江市職労からの幹事について、会長から市職労へ依頼する。
 - 幹事会は、今後2か月に1回とする。
 - 次回総会は3月か4月 その時併せて人形劇をする。
 - その関係で、忌部へのハイキングは来秋
- へまわす
- 8月にぶどう狩りを計画
 - 県へ補助金の申請をする。
- 12.17 第3回相談部(流会)
- 12.18 第11回 事務局会議
79. 2. 8 第8回 幹事会
- 第4回 総会について
2. 9 第12回 事務局会議
3. 8 第9回 幹事会
- 3.10 ニュース No.9 発行
- 3.11 映画会
- 3.16 第13回 事務局会議
- 人形劇準備 総会準備
- 3.21 人形劇公演・福祉制度の説明会 於、松江市青年センター
- 人形劇 劇団チキート
 - 演目: 「おやゆび姫」「人形の散歩」
 - 福祉制度の説明会
 - 講師 吉川氏
 - (東部福祉事務所ケースワーカー)
 - 出された要望
 - 障害児の通園・通学に際し、その弟妹を一時みてくれるヘルパー制度がほしい。
 - 共働きの保護者から、下校後の子どもをみてくれる「学童保育」がほしい。
 - 保母さんから、障害児保育について学習会をすすめたい。
 - (この翌日には、早速数人が福祉手当を申請)
- 4.23 第14回 事務局会議
- 5.10 第9回 幹事会
- 5.14 第15回 事務局会議
- 5.29 ニュース No.10 発行
6. 3 第16回 事務局会議
6. 7 第10回 幹事会 いこいセンター
- 79年度(昭和54年度)
- 6.10 第4回(1979年度) 総会
- いこいセンター
 - 30人参加
 - 映画「さくらんぼ坊や」上映
 - (会費 100円)
 - 会長 保護者
 - 副会長 保護者 保護者

- 事務局長 保護者
幹事
- 教育 教員 2名
保護者 保護者 2名
福祉 保母
医療 保健婦 2名
会計監査 学生
- 7.7 新旧幹事親睦会
7.17 第1回 事務局会議
7.19 第1回 幹事会
- ・ぶどう狩りを9月に実施する。
 - ・保護者部会 以下の点を考えて発展させる
 - ① ただ意見や悩みなどをだしあうだけでなく、ある程度方向づけをする。つまり、その問題については、……していこう、……のように処理しよう等々。
 - ② 並行して子どもを遊ばせ、“保育”をおこなう。
 - ③ ①に関連して、相談部も参加する。相談部の活動の一つとしても位置づける。
 - ④ 会長を責任者として、事務局長、保護者事務局員とも相談をしてすすめる。2回目以降は、新しい副会長や保護者の幹事も中心になってすすめる。
 - ⑤ 期間はまた検討するが、できれば定期的に開く。
 - ・宮城まり子さんの講演会を企画する
 - ・県への陳情
 - スクールバス 高等部設置 会への助成
 - 松江市への陳情 相談部で検討のうえ
 - ・会計 現在ほぼ 25万円
 - ・会長、副会長、事務局長 4人の名刺をつくる
 - ・会費の納入については、今後郵便振り替えを利用する。
 - ・映画「春男の翔んだ空」のチケットを、手をつなぐ親の会から20枚預かり、15枚はできるだけ売るようにする。
- 8.29 ニュース No.11 発行
9.11 第2回 事務局会議
- ・第2回幹事会の議案の審議
- 9.13 第2回 幹事会 6:30 - いこいセンター
- ・会員数 62団体 2
- ・会財政 260,757円
- ・忌部ハイキングはとりやめて、リンゴ狩りにする。
 - ・2周年記念集会を開く。
 - ・衆議院選挙に向けて候補者に質問状をだす件は、公選法にふれるおそれがあるので中止する。
- 9.16 第3回 事務局会議
- ・2周年記念行事について
- 10.5 第4回 事務局会議
- ・リンゴ狩りについて
- 10.6 (手をつなぐ親の会主催、映画「春男の翔んだ空」上映会)
- 10.10 リンゴ狩り 三瓶
- | | | | |
|-------|-----|--------|-------|
| ・個人負担 | 大人 | 1,600円 | 28人 |
| | 中学生 | 400円 | 19人 |
| | 小学生 | 300円 | 11人 |
| | 乳児 | | 3人 |
| | | | 計 61人 |
- リンゴ園入園料
- | | | |
|--|----|---------|
| | 大人 | 540円 |
| | 小人 | 360円 |
| | 幼児 | 270円 |
| | 計 | 24,650円 |
- 子どもおやつ代 6,270円
バス代 78,500円
会からの負担 95,220円
- 10.30 第5回 事務局会議
- ・リンゴ狩りのまとめ
 - ・2周年記念行事の計画
 - ・年度途中の入会者の会費……いつ入会しても年会費
 - ・会の財政を潤すような活動はないか
- 11.16 ニュース No.12 発行
11.8 第3回 幹事会
12.1 バザー準備会
12.2 映画とバザー (バザーは会としてはじめての試み)
- 80.1.25 ニュース No.13 発行
2.9 河添邦俊氏講演会 (全障研と共催)
3.14 第6回 事務局会議
6.13 第7回 事務局会議
- 80年度(昭和55年度)

- 7.13 第5回 総会
出席者 30余名 会員数 60
・80年度の方針
幹事会の機能の充実
会員を100名にする。保護者の比率を高め、自治体交渉の力を強める。
大規模な講演会を開く。学校・施設見学をする。
独立していた相談部の廃止 今後は幹事会で
・役員
会長 保護者
副会長 保護者 保護者
事務局長 保護者
幹事
教育 教員
保護者 2名
福祉 保母
医療 保健婦 2名 医師
会計監査 保母 保護者
・講演 : 障害者とりハビリテーション
講師 : 木佐 俊郎 (県立中央病院)
参加者 28人
8. 4 第1回 事務局会議
8.23 第1回 幹事会
9.13 第2回 事務局会議
9.28 リクレーション いも掘り 忌部休暇村
参加者 大人 25名 小ども 22名
10:15 県庁前 出発
11:00 忌部休暇村到着 いも掘り ふかしいもづくり
12:30 昼食 (キャンプ場)
1:30 親子遊び (リーダー・保母研会員)
3:30 解散
10. 8 12月講演会について全障研と合同打ち合せ会
10.21 第3回 事務局会議
10.26 リクレーション ソフトボール大会
緑が丘養護学校校庭
参加者 13家族
大人 19名 小ども 16名
松江市議 6名 その他 8名
- 10.29 第4回 事務局会議
11. 8 第2回 幹事会
11.14 12月講演会実行委員会
(会員宅 18:30 - 21:00)
12. 4 ニュース No.? 発行
12.14 障害者の進路問題を考える集い
講演 : 作業所づくりのとりくみを通して
講師 : 尾藤進一
(京都府立与謝の海養護学校)
参加者 99人
教員 43人 保護者 21人 学生 19人
チケット収入 51,200 支出 54,435
81. 1.23 ニュース No.? 発行
1.22 第5回 事務局会議
1.31 新年の集い
・もちつき 城北公民館内 ふじのみ園
参加費 100円 10:30-2:00
・子ども向けマンガ映画
- 2.20 第3回 幹事会
2.26 第6回 事務局会議
2.? 県へ陳情 (資料参照)
高等部, スクールバス, 各種補助
3. 6 バザー (第2回) と映画会 いこいセンター
バザー収益 43,130円
- 5.14 第7回 事務局会議
5.29 講演会 (全障研・障全協と共催)
講演 : 障害者の発達と労働権保障
講師 : 秦 安雄 (日本福祉大学)
参加者 65名
終了後、講師を囲んで懇親会
- 6.12 第8回 事務局会議
6.24 第4回 幹事会
6.28 ニュース No.? 発行
- 81年度 (昭和56年度)
- 7.12 第6回 総会
1:30-4:00 於 いこいセンター
会員数 83 保護者 30
松江市議会議員 21
障害者 1 保母 5 医師 1
学生 3 教員 7 主婦 5
会長 保護者
副会長 保護者 保護者
事務局長 保護者
幹事
保護者 3名
教員 2名
福祉 保母 保健婦

- 医療 医師 3名
障害者
会計監査 保護者 保母
講演 : ちえおくれの仲間とともに未来を開く
講師 : 高橋 憲二
(隠岐・「仁万の里」所長)
- 7.26 第2回 松江市議との対抗ソフトボール大会
13:00 - ダブルヘッダー
終了後懇親会 協議会内に野球部
結成の気運
- 7.29 映画と講演の集い (保問研・全障研・障全協と共催)
6:00- 県民会館 参加費 300円
映画 「さくらんぼ坊」
講演 : ヒトの子を人間に育てる保育の実践
講師 : 斎藤 公子
参加費収入 91,232 支出 97,842
寄付(保問研) 6,610
- 8.30 学習会
講師 狩野 寛之
(益田市立吉田小学校ことばの教室)
演題 ことばの教室の授業と訓練
終了後 第1回 事務局会議
第1回 幹事会
- 9.15 ニュース No.? 発行
- 9.18 国際障害者年をすすめる会主催「映画と講演の集い」実行委員会
(この実行委員会に会として加入)
- 9.23 学習会 1:30-3:30 いこいセンター
講師 西 信高
演題 ことばと発達, 高等部の問題について
終了後 第2回 幹事会
10. 8 ニュース No.? 発行
- 10.18 学習会
講師 西 信高
演題 高等部の問題について
終了後 第3回 幹事会
「養護学校高等部の新增設と通学用スクールバスの配備に関する(県議会への請願署名)に取り組むことを決定
- 10.29 映画と講演の集い 主催: 国際障害者年をすすめる会
- 参加者 400名 県民会館中ホール
映画 「いまでできること」
講師 大久保 哲夫 (奈良教育大学)
11. 8 リクレーション 蒜山ハイク
(約60名の申し込みがあったが, 当日悪天候のため中止)
参加費 大人 1,000円
小中学生 500円
- 11.28 ニュース No.? 発行
12. 6 学習会
講師 岡寺 孫一
演題 中学卒業後の進路保障について
終了後 第4回 幹事会
82. 2. 7 「高等部」街頭署名
2.25 県議会へ署名請願提出
紹介議員 岩本久人 神門吉晴
長谷川仁 森山金一
- 6.19 第5回 幹事会
7. 4 ニュース No.? 発行
- 8 2年度(昭和57年度)
- 7.18 第7回 総会
吉田村 芦谷峽 9時 岸銅像前集合
釣りと総会
参加費 大人・中学生 1,000円
小学生 500円
幼児 無料
- 会長 保護者
副会長 保護者 保護者
事務局長 保護者
幹事
保護者 3名
教員 2名
福祉 保健婦 2名
医療 医師 2名
障害者 1名
会計監査 未定
会費を, 年1,000円とする。
9. 4 第1回 事務局会議
11.19 第2回 事務局会議
12.13 県議会において高等部等に関する請願趣旨説明(会長)
12.18 忘年会

- 12.22 県議会より請願審査結果の通知
1. 各養護学校に進学希望者を収容するに
たる高等部を設置すること
－ 採択 (趣旨採択)
 2. 各特殊学校に通学用スクールバスを配
備し、自宅からの通学を援助すること
－ 継続
83. 1. 6 新年会 兼 第3回 事務局会議
- 1.30 もちつき会 (淞南会館)
 2. 5 第4回 事務局会議
 - 6.26 第5回 事務局会議
 - 6.29 ニュース No. 7 発行
- 83年度 (昭和58年度)
- 7.10 第8回 総会 島根県民会館 301室
高等部設置にむけて全力投球すること
を決定
講演 講師 吉本、金井 両氏
(四つ葉産業指導員)
演題 松江市にできる収容授産施
設について
- 会長 保護者
副会長 保護者
事務局長 保護者
幹事
保護者 3名
教員 1名
福祉 保母
医療 保健婦 医師
障害者 なし
学生 1名
会計監査 保護者
会員数 91
- 7.12 83年度 ニュース No. 1 発行
- 8.28 第2回 事務局会議
ソフトボール (ナイター) の準備
道具は保護者が用意する
高等部に関するアンケート調査の件
- 8.29 ニュース No. 2 発行
9. 7 ソフトボール大会 7時-9時
白潟小学校 ナイター
島根大学学生との対抗試合
- 9.-10. 高等部に関するアンケート調査実施
- 9.28 養護学校等保護者会役員交流会の呼びかけ
- 呼びかけ先
清心養護学校 保護者会長, 副会長
松江養護学校 保護者会長
緑が丘養護学校 保護者会長, 先生
附属中学校 保護者会長
10. 1 養護学校等保護者会役員交流会
意見交換の内容 養護学校高等部問題
授産施設問題
10.15に集会を開くことを決定
－ 松江市議会議員との交歓ソフトボール大会
計画したが中止
- 10.11 ニュース No. 3 発行
- 10.15 高等部の早期設置を求める集会
6:00-8:00 むらくも会館
11. 7 ニュース No. 4 発行
- 11.12 皆生養護学校見学
9:30 ふじのみ園集合
10:00 津田やよい集合・出発
13:00 皆生養護学校出発
- (11.23 県教育委員会, 出雲・石見両養護学校に
来年4月から高等部を開設することを発表
11.25 同, 高等部入学者選抜要項を発表)
12. 5 ニュース No. 5 発行
12. 9 高等部進学に関する 緊急相談・説明会
7:00-9:00 むらくも会館
会が入手した情報に基づいて, 申し込み
方法・松江からも入学可能か・合否基準
等々の説明会
- 12.10 忘年会 6:30 - よびこ
- 12.11 もちつき会 10:00-12:00 白潟公民館
84. 1.22 ニュース No. 6 発行
2. 5 リクレーション
スキーと雪あそび 三井野原
(計画するも直前にカゼの流行で急遽中止)
2. 9 幹事会 (第1回)・事務局 (第3回) 合同会議
高等部「入試」の結果
バザー準備
- 2.25 ニュース No. 7 発行
3. 4 県教組主催 障害児教育研究集会
第1分科会「進路問題」で, 事務局長
(保護者) が話題提供
3. 7 第4回 事務局会議
- 3.18 バザー 1:00 - いこいセンター
収益 38,000円
- 3.21 バザー協力者に対する礼状発送

- 4.19 ニュース No.9 発行
 いて、詳細の連絡
 ・作業所をつくる方向で、具体的に検討を開始することを決定
- 8 4 年度（昭和 5 9 年度）
- 5.13 第 9 回 総会 いセンター 2 時 -
 会長 保護者
 副会長 保護者 保護者
 事務局長 保護者
 幹事
 保護者 保護者 2名
 教育 教員
 福祉 保母
 医療 保健婦 2名
 会計監査 保護者 3名
 会員 80 会費納入 50
 講演 講師：竹内 幸雄
 （石見養護学校）
 演題：ちえおくれ養護学校高等部の現状について
6. 2 第 1 回 事務局会議， 第 1 回 幹事会
 7：00-8：30 保護者宅
 ・夏休み期間中の「サマースクール」について
 （具体的検討はこの日が初めて）
 期日は 8 月 7, 8, 9 日とし、運営委員会方式で準備・運営する
 ・保母さんと保護者の懇談会
 6 月実施で何人かの保母さんに打診したが、「時期早尚」
- 6.16 「サマースクール」第 1 回 運営委員会
- 7.14 ニュース No.1 発行
- 6.30 第 2 回 事務局会議， 第 2 回 幹事会
 7：00-9：00 保護者宅
 ・「サマースクール」の準備
 ・当面の活動について
 緑が丘養護学校の保護者から養護学校高等部設置について要望がだされた。
7. 4 第 3 回 事務局会議 7：00 - 9：00
 ・「サマースクール」の準備
 ・高等部問題について今後の活動
 ・「仁万の里」見学
 ・今年度のリクレーション
- 7.14 ニュース No.2 発行
- 7.29 第 4 回 事務局会議
 ・「サマースクール」参加申し込み者にた
- 8.13 「サマースクール」参加者にたいして、アンケート発送
- 8.14 ニュース No.3 発行
- 8.18 第 5 回 事務局会議
 ・「サマースクール」のまとめ
 ・作業所について
 a. 場所、仕事の内容、募集人員
 持田あたりで養鶏はどうか
 b. 指導員 協力してくれるひとがいる。
 c. 資金計画
 d. 運営主体 連絡協議会でするか別の体制を考えるか。
 ・高等部
 ・リクレーション
9. 8 第 6 回 事務局会議 6：30-
 ・「サマースクール」の報告書づくり
 ・作業所について
9. 8 「サマースクール」反省・懇親会
- 9.14 ニュース No.4 発行
- 10.20 第 7 回 事務局会議 7：00 - 9：00
 ・「サマースクール」の最後のまとめ
 ・作業所について
 ・ソフトボール大会について 9 月中にと計画していたが、困難
11. 1 第 8 回 事務局会議
 ・泊まって語ろう会と親子体操教室の計画
11. 6 ニュース No.5 発行
- 11.12 ニュース No.6 発行
 （「青年の家」を借りるのに会の素姓等警戒感が露骨だったので、11.1 の計画を変更し、11.25 に親子ハイキングと体操教室を実施する旨案内）
- 11.25 保護者交流会・親子体操教室（第 1 回）
 城西公民館
 天候不順のためハイキング中止
 午前-親子体操 午後-交流会
- 11.25 第 3 回 幹事会
 ・作業所について、総会に次ぐ議決機関である幹事会で、「つくる方向で検討することの承認
12. 2 ニュース No.7 発行

- 12.16 もちつき会 白潟公民館 10:00-2:00
 会費 200円 3歳以下無料
 親子体操 もちつき 交流会
 講演 講師 : 土井 (四つ葉園)
 演題 : 四つ葉園の活動状況について
- 12.22 第9回 事務局会議 7:00-9:00
 ・第3回親子体操教室の講師 清心養護学校の野津先生に依頼する
 ・新年会
 ・バザーの他これからの活動
85. 1.6 第3回 親子体操教室
 1.25 ニュース No.8 発行
 2.2 第10回 事務局会議 7:00-9:00
 2.9 第4回 親子体操教室
 2.16 第11回 事務局会議
 2.24 バザー いこいセンター 収益 4万弱
 3.9 第5回 親子体操教室 白潟公民館
 「さくらんぼ坊や2」上映
 4.13 第6回 親子体操教室 白潟公民館
 「さくらんぼ坊や3」上映
 5.11 第7回 親子体操教室 白潟公民館
 「さくらんぼ坊や4」上映
 6.8 第8回 親子体操教室 白潟公民館
 「さくらんぼ坊や5」上映
 6.15 第12回 事務局会議
 6.23 県教組主催「第2回障害児(者)問題を考える島根県集會」参加
 6.26 第13回 事務局会議
 7.2 ニュース No.9 発行
 7.2 「サマースクール」について松江養護学校校長宛て「施設借用願い」文書発送
 7.9 第14回 事務局会議
- 7.数回 「サマースクール」準備会 「だんだんまつり」準備会
 8.数回 「サマースクール」準備会 「だんだんまつり」準備会
 8.3,4 「だんだんまつり」参加
 8.8-11 第2回「サマースクール」 (松江養護学校)
 8.29 第1回 幹事会
 9.5 ニュース No.1 発行
 9.10 秦先生を囲んで 懇談会 (作業所づくりについて)
 9.14 第9回 親子体操教室
 10.12 第10回 親子体操教室
 11.1 第?回 事務局会議 7:00-
 12月もちつき会 カレンダー販売等の検討
 11.16 第11回 親子体操教室 (白潟公民館)
 12.14 第12回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
86. 1.11 第13回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
 1.11 ニュース No.2 発行
 1.19 もちつき会 (松江市総合福祉センター)
 大人 200円 小学生以上 100円
 2.8 第14回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
 2.8 ニュース No.3 発行
 3.8 第15回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
 4.12 第16回 親子体操教室 (戸外・末次公園)
 4.21 ニュース No.4 発行
 4.28 ニュース No.5 発行
 5.10 第16回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
 5.30 第2回 幹事会 (松江市総合福祉センター)
 6.8 ニュース No.6 発行
 6.14 第17回 親子体操教室
 (松江市総合福祉センター)
- 85年度(昭和60年度)
- 7.14 第10回 総会 1:30-4:00
 松江市総合福祉センター
 会長 保護者
 副会長 保護者 保護者
 事務局長 保護者
 幹事
 保護者 2名
 教育 教員 2名
 福祉 保母
 医療 保健婦 2名
 会計監査 保護者 2名
 会員 104 会費納入 50